

新たにカンガルーひろばが完成

飼育展示担当 主席主査 中井 朱

10月10日、ふれあいランドのポニー展示場の空きスペースに「カンガルーひろば」(以下、ひろば)が完成しました。ひろばの設置は飼育員の提案によるもので、来園者の動線から離れたふれあいランド奥の魅力アップと、従来の展示場が繁殖により手狭になったことによるカンガルー同士のトラブルを防止することが目的です。

春から夏にかけてひろばの設計などを協議し、約2か月の工事期間後、動物の脱出やケガ防止のための手直しなどを経て、メス9頭をふれあいランドのポニー展示場隣に移動しました(移動後にメスの袋に赤ちゃんがいたことがわかり11頭になりました)。

引っ越し作業はスムーズに終わりホッとしたのもつかの間、翌日から行った展示訓練では、慣れない場所のためか、カンガルー達



●来園者との距離も近いです

はほとんどが室内から外に出ようとしませんでした。飼育員がエサで誘導すると、肝の据わった1頭が外に出たのを皮切りに、他の個体も少しずつ外に出て下草を食べ始めました。同月12日からの三連休にはお客様もひろばの中に入られるよう開放し、お客様にカンガルーを間近で見てもらいました。

寒さが苦手なカンガルーなので、冬期間は外に出る回数が減ると思いますが、春からの通常開園では、ひろばで元気に動き回るカンガルーたちを見に来てください。



●広々としたカンガルーひろば

動物病院から

トレーニングは積み重ねが重要

獣医師 湯澤 菜穂子

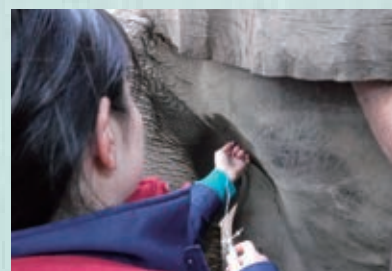
みなさんは動物園で飼育員がアフリカゾウに号令をかけている場面を見たことがあるかもしれません。それは、体が大きくて非常に力の強いゾウの健康管理を安全に行うために毎日行っているトレーニングの様子です。仙台市八木山動物公園からやって来たメスのリリーも健康管理にとって大切な肢のケアや、採血、採尿等を行っています。今回はリリーの採血のお話をします。

リリーは週に1回採血をして、血液検査による健康状態のチェックや、繁殖に関わるホルモンの測定をしています。やり方は、リリーに柵の横で伏せの体勢になってもらい、耳の裏側の血管に針を刺して採血をします。当然、動物も人と同じように針を刺されると痛いので、定期的な採血ができるようになるにはリリーから信頼してもらえるよう地道な訓練が必要です。

この夏、リリーの機嫌を損ねてしまったのか、これまで毎週行っていた採血を嫌がるようになりました。リリーに協力してもらえないと採血はできないので、また一から少しずつトレーニングを積み重ねていくことになりました。

トレーニングの手順としては、獣医師がリリーの耳を指で触るだけ、痛くないように先端を丸めた針を当てるだけ、軽くつつくだけ、と少しずつ段階を踏んで進め、2か月かけてようやく以前のように毎週採血ができるようになりました。

採血のトレーニングに限らず、動物たちの健康を守るためには、獣医師も一日一日の積み重ねが大切だと実感しました。



耳の裏側から採血を行います



採血前の「伏せ」のトレーニング